

立命館大学理工学部 びわこ・くさつキャンパス移転20周年 記念事業募金 趣意書

電子システム系

(電気電子工学科・電子情報工学科)



世界水準の教育研究の展開に向けた新たなステージへ



立命館大学理工学部 教授
BKC移転20周年記念事業募金
発起人代表

坂根 政男

平素より立命館大学理工学部に対しまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

立命館大学理工学部は、1938年立命館高等工科学校設立以来74年、衣笠キャンパスでの教育研究活動の歴史を経て、1994年のびわこくさつキャンパス(BKC)への拡充移転を契機に、先端的な教学分野の創造や大学院の大幅な拡充、先進的な産官学連携活動による研究の高度化を進めて参りました。

現在、理工学部9学科に約4,300名、大学院理工学研究科4専攻に約1,200名が学んでいます。さらに、理工学系学部全体では、4学部18学科に約8,200名、大学院3研究科に約1,500名を擁する規模となり、今や、国際的にも認知される理工系の教育研究機関に発展したとささやかな自負を持っております。これも、ひとえに卒業生のみなさまが築いてこられた礎と厚いご支援の賜物と教職員一同、大変感謝いたしております。

理工学部は、2014年にBKC移転20周年を迎えます。これを契機として、世界水準の教育研究の地平を拓くべく教育研究環境の充実を図ります。その目的は、教育面では、数学や物理学等の理工学の基礎学力を持ち、それらをそれぞれの専門分野で縦横に使いこなし、併せてグローバルな研究開発の世界で活躍できる英語や国際感覚を身につけた人材を輩出することにあります。また、研究面では、各学系・学科における各専門分野での研究を一段高い世界水準に引き上げ、より一層社会に貢献することを目的としています。もとより、教育と研究とは相互関連しており、両者のレベルを総合的に一段高い世界水準に引き上げることが目標としています。

さらに、大学の発展に寄与していただいた卒業生との繋がりを大切にするため、BKCの既存の校友サロンの改修、校友受入体制の充実の検討を進めております。

卒業生の皆様におかれましては、上記諸点に格別のご理解を賜り、本事業の成功に向けて、格段のお力添えを賜りたく、ここにお願い申し上げます。



立命館大学理工学部 教授
学部長

笠原 健一

関西の総合大学の中で、最も長い歴史を誇る立命館大学理工学部は、現在、日本が直面している国際競争力の維持や、深刻なエネルギー問題・環境問題を解決し、持続可能な未来社会を実現するための研究を推進しています。低コストなエネルギー変換素子やセンサーネットワーク・次世代電力網の構築に関わる分散協調型システム制御技術。高い信頼性を有する画期的な機械材料の実現や医療福祉用ヒューマノイドロボット技術。環境と共生可能な建築や都市・交通システム。それらを支える数学や物理学科学基盤の構築等々、理工学部では地球規模的で互いに絡み合った諸問題の解決に取り組んでいます。

一方、全てのものを巻き込み、猛烈な勢いで進むグローバル化。激化する競争の中で科学や技術に関する知力や胆力を持って周囲をリードし、これを解決していく。このような人材を育て、社会に送り出していくことが理工学部の役割です。そのために我々は、これまでの教育・研究の一層の高度化と個性化を図ります。研究では特徴を持った世界水準の研究を創出・展開していきます。その過程において学生を巻き込み、国際会議等における成果発表はもとより、活動のフィールドを世界に広げ、グローバルに活躍する力を身につけます。

このような「世界水準の研究」と「グローバル人材の育成」という2つの使命を一体化させ、組織的な運営を進める中で、大きな相乗効果を生み出します。

大学に対する社会の期待が高まる中、諸科学や産業界、地域社会における様々な課題の解決に貢献し、既存の枠組みを超えたイノベーション創出に寄与していきます。

命ある限り、修養、勉学に努めることが立命館の名称の由来である「孟子」の盡心章に書かれている心です。その精神を忘れることなく、常に新しいことに挑戦し、科学技術分野のフロントランナーとして世界を牽引していきます。

卒業生の皆様におかれましては、各学系・学科の取り組みにご理解を賜り、世界水準を見据えた理工学部の発展に格別のお力添えを賜りたく、ここにお願い申し上げます。

発起人一覧 (2013年8月末現在、敬称略、50音順)

歴代学部長 (年代順)

大南 正瑛
田中 道七
井上 和夫
谷口 吉弘
児島 孝之
高倉 秀行
坂根 政男
笠原 健一(現職)

数理科学科/ 物理科学科

【卒業生】
河野 俊彦
谷田 龍一
西野 茂弘
藤原 銀次郎

松田 全功
吉野 盛行
【本学教員】
赤堀 次郎
荒井 正治
今田 真
川方 裕則
清水 寧
菅原 祐二
中田 俊隆
中山 康之
難波 秀利
深尾 浩次
藤家 雪朗
森 正樹
藪 博之
和田 浩史

電子システム系

【卒業生】
天野 佳則
荒木 敬
池田 育弘
加藤 義彦
瀬見 英利
田中 寿雄
津田 見真
南 能寿
安江 弘雄
山下 勇
米澤 正勝
【本学教員】
浦山 隆
小野 雄三
北澤 敏秀

小松 康廣

高山 茂
田口 耕造
辻村 寛
寺井 秀一
福井 正博
馬杉 正男
森本 朗裕
山内 寛紀

機械システム系

【卒業生】
上田 武嗣
榎本 圭介
大内 章
大庫 典雄
境田 彰芳
佐々浪 元彦

塩澤 和章
島田 泰男
富高 和彦
廣瀬 全宏
福知 武司
福地 雄介
堀 美知郎
【本学教員】
石井 明
上野 明
大上 芳文
川村 貞夫
木股 雅章
日下 貴之
酒井 達雄
田中 武司
谷 泰弘
津田 雅也

鳥山 寿之
永井 清
馬 書根
山本 憲隆
吉岡 修哉

環境都市系

【卒業生】
浅賀 博
伊藤 清則
糸田川 廣志
井上 房雄
大西 博
大森 秀高
可児 幸彦
川那部 隆二
下岡 吉治
田中 伊三雄

田中 健明
田中 豊
中尾 恵昭
西本 安範
部田 哲雄
湊 制司
宮川 繁雄
山岡 和則
吉川 征史
【本学教員】
尼崎 省二
伊津野 和行
市木 敦之
伊藤 満
J.C.ウェルズ
及川 清昭
大窪 健之
岡本 享久

神子 直之
小林 紘士
武田 史朗
建山 和由
塚口 博司
中島 淳
野阪 克義
橋本 征二
早川 清
春名 攻
樋口 能士
深川 良一
宗本 晋作
山崎 正史
山田 淳
吉富 信太

旧化学科

【卒業生】
奥野 年秀

事務職員

岩井 宏蔵
木下 祐子
中井 康雄
日置 正治
山田 ひろみ
吉田 円

私立電気工学講習所設立100周年、BKC移転20周年、 電子情報工学科設立10周年の新展開

電子システム系 学系長 馬杉 正男

立命館大学理工学部は、2014年にびわこくさつキャンパス(BKC)への移転20周年を迎えます。一方で、本学系電気電子工学科は、その前身となる私立電気工学講習所設立より100周年を迎えます。また、BKCにて新展開を図った電子情報工学科設立(設立当初の名称は「電子情報デザイン学科」)より10周年を迎えます。この間、電子システム系は、時代の技術動向を鑑みつつ先端的な教育研究に取り組み、今や国内外で高い評価を受け、広く認知された教育研究機関に発展してきました。これら成果は、卒業生の皆様が築いてこられた礎とご支援の賜物であると深く感謝申し上げます。

さてこの記念すべき節目に、電子システム系では2つの最先端研究領域「フロンティアエレクトロニクス研究開発」と「分散協調型システム制御・信号処理研究」における設備・システムの構築を図り、電気・電子・情報における新たな教育研究の

展開を実践する所存です。電子システム系は、本事業を理工学部BKC移転20周年記念事業の一翼として位置付け、諸氏皆様方に事業募金のご依頼を申し上げる次第です。何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

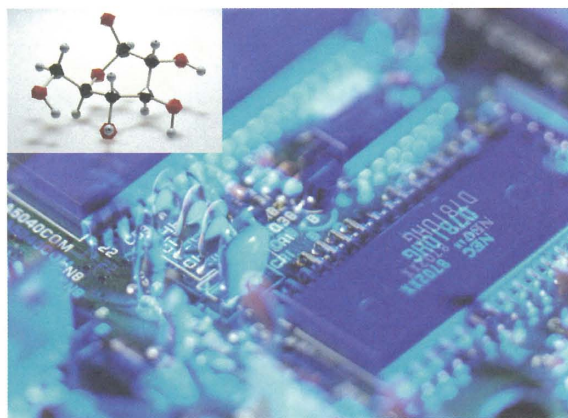
※電子光情報工学科(旧称「光工学科」)は2012年度より電気電子工学科と統合いたしました。



電子システム系が新展開する 研 究 領 域

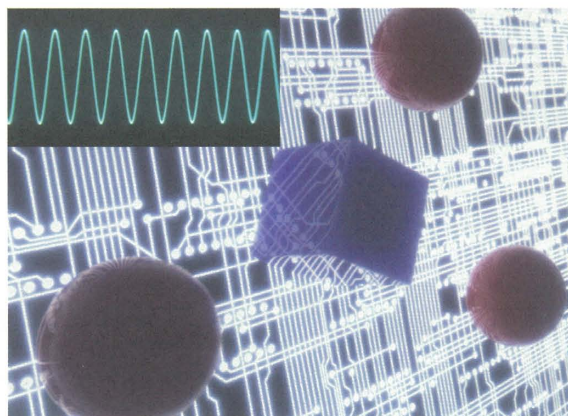
フロンティアエレクトロニクス研究開発

我々人類が21世紀に抱える深刻なエネルギー問題、環境問題を解決し、持続可能な未来社会を構築するためには、新しい材料(有機、ナノなど)および新しい適用領域(周波数、パワー、速度、効率、耐環境など)で応用可能な電子デバイス、光デバイス、センサデバイス、エネルギー変換デバイス、先端的集積回路などの創成を目指す電気電子工学分野の新展開が強く求められています。これらを実現するため、レーザー顕微鏡やデバイスアナライザ、超高速画像計測装置、光サンプリングオシロスコープからなる研究開発システムを整備し、材料開発、デバイス開発、計測・評価技術開発に活用してフロンティアエレクトロニクス分野で活躍する人材輩出に資した教育研究活動に取り組んで参ります。



分散協調型システム制御・信号処理研究

近年の通信技術の発達に伴い、センサネットワーク、次世代電力網、自律ビークル群の隊列運転システムなどのように通信ネットワーク上に広がる大規模システムの制御・信号処理技術がますます重要視されてきています。このようなシステムを対象とした制御・信号処理の先端的な教育研究を行うためには、種々のシミュレーションや実験をネットワーク上で分散協調的に実行できる設備環境が不可欠です。これらを実現するため、ネットワーク環境で利用可能な数値計算・シミュレーションソフトおよび制御実験装置からなる大規模システム用制御・信号処理技術に関する設備環境を整備し、先進的な制御・信号処理技術に関する教育研究に取り組みます。



募集要項

寄付募集目標額

2億円（教育研究環境整備各学系5000万円）

募集期間

第1期 2013年 4月1日 → 2013年10月31日

第2期 2013年11月1日 → 2014年 3月31日

申込金額

法人 1口 10万円 ※1口未満のご寄付もありがたくお受けいたします。

個人 1口 5千円 可能な限り、2口以上のご協力をお願いいたします。
(1口でのご寄付についてもありがたくお受けいたします。)

申込方法

① インターネットからのお申込

「立命館大学理工学部びわこ・くさつキャンパス移転20周年記念事業募金」ホームページ
(<http://www.ritsumei.ac.jp/se2012/bkc20/index.html>)の「ご寄付のお願い」よりお申込ください。

② 書面でのお申込

別紙の振込用紙に必要な事項をご記入のうえ、お振込ください。

※法人等団体でお申込いただく場合は、別に申込用紙を用意しております。
詳細につきましては、立命館大学理工学部事務室までお問合せください。

特典

【ご寄付いただいた全員の方】

ご芳名を寄付者銘板に刻印いたします。

【2万円以上ご寄付いただいた方】

上記に加え、ご希望の方には、レンガにご芳名を刻印し、BKCキャンパス内に設置いたします。
(詳細は9月以降に本事業ホームページにてお知らせいたします。)

寄付金に対する税制上の優遇について

個人の場合

本学に対するご寄付は、所得税の税制上の優遇措置を受けることができます。

控除は「税額控除」と「所得控除」のいずれかを選択いただけます。

優遇措置を受けるには、確定申告の際に本学発行の「領収書」の添付が必要となります。

税額控除 = $[(\text{寄付金額} \times 1 - 2000\text{円}) \times 40\%]$ ※2

所得控除 = 当該年中に支出した寄付金の額 ※1 - 2000円

※1 当該年の総所得金額等の40%が限度額となります。

※2 所得税額の25%が限度額となります。

法人の場合

企業等法人からのご寄付につきましては、寄付金額を当該事業年度の損金に算入できます。

次の通り、寄付の方法によって、損金算入できる額が異なります。

① 「受配者指定寄付金」としてご寄付いただく場合は、寄付金の全額を損金に算入することができます。

受配者指定寄付金制度は、日本私立学校振興・共済事業団が寄付金を受け入れ、寄付者が指定する私立学校に寄付金を配布する制度です。
私立学校に寄付した場合に、寄付金支出額全額を損金算入できる唯一の制度です。

② 「特定公益増進法人に対する寄付金」としてご寄付いただく場合は、寄付金の一定の限度額まで損金に算入することができます。

次の計算式に則って、一般寄付と別枠で損金算入することができます。

● 特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額

$(\text{資本等の金額} \times 0.375\% + \text{当該年度所得} \times 6.25\%) \times 1/2$ ※1

※1 「特定公益増進法人」への寄付の損金算入限度額を超える部分の金額は、「その他の法人等」への寄付として損金算入ができます。

立命館大学 理工学部

本件に関するお問い合わせは理工学部事務室までお願いいたします。

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 Tel.077-561-5747 FAX.077-599-4259

理工学部BKC20周年

検索

<http://www.ritsumei.ac.jp/se2012/bkc20/index.html>

▶ イベント情報の詳細や寄付活動の進捗を掲載していきます。